令和３年度　　発表日：令和３年７月29日

農作物病害虫発生現況情報（７月）　水稲編

岩手県病害虫防除所

１　いもち病（葉いもち）

（１）７月下旬の巡回調査（148圃場）での発生圃場率（発病葉率0.2%以上）は、5.0%（平年3.8%）であり、平年並であった（図１）。

（２）７月下旬の巡回調査（148圃場）では、県南部と沿岸部（遠野地域）で発生圃場率が平年より高かった（図２）。

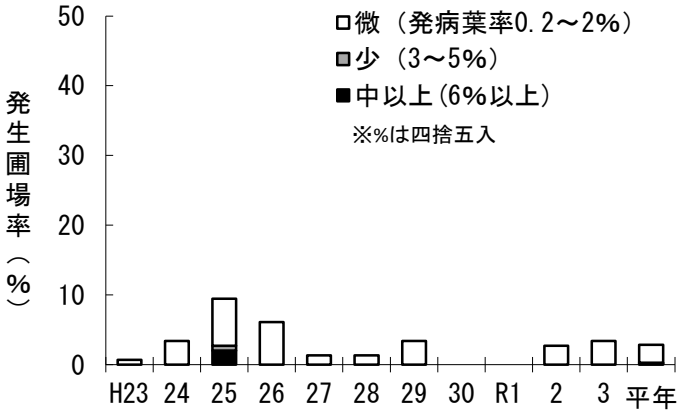

図１　葉いもち発生圃場率の年次推移（７月下旬）

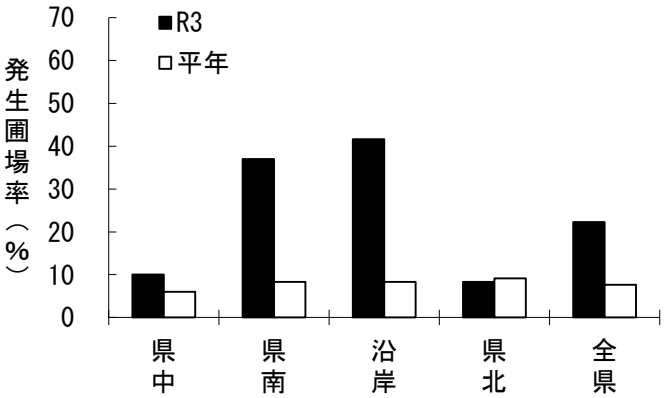

図２　葉いもち発生状況（７月下旬）

※100 株調査で発病葉が認められた圃場率

２　紋枯病

（１）７月下旬の巡回調査（148圃場）での発生圃場率は、20.9%（平年17.2%）であり、平年並であった（図３）。

３　ばか苗病

（１）７月上旬の巡回調査（148圃場）での発生圃場率は、19.6%（平年7.6%）であり、平年より高かったが、発生程度の高い圃場は確認されなかった（図４）。

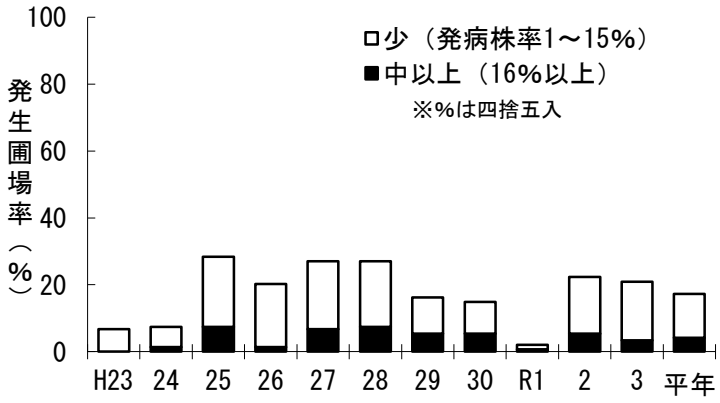

図３ 紋枯病発生圃場率の年次推移（７月下旬）

※病斑が第４葉鞘以下の発病を含む

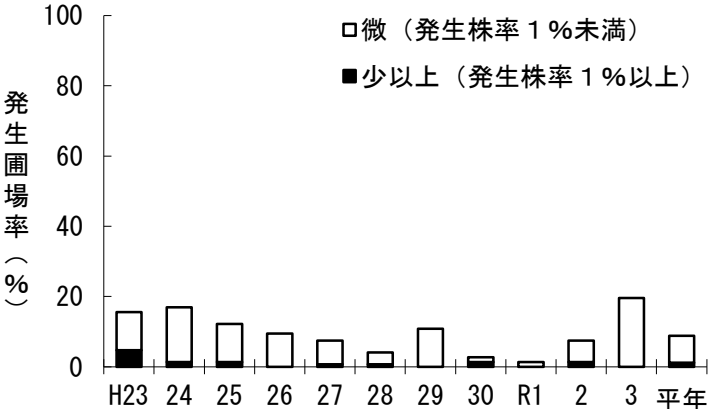

図４ ばか苗病発生圃場率の年次推移（７月上旬）

４　ごま葉枯病

（１）７月下旬の巡回調査では、発生は確認されなかった（データ省略）。

5　斑点米カメムシ類

（1）基準圃場（北上市成田、イタリアンライグラス）では、７月第５半旬にカスミカメムシ類幼虫のすくい取り頭数が増加した（図５）。

（2）　７月 14～21 日に実施した水田畦畔におけるすくい取り調査（74 圃場）では、発生圃場率は 70.3%（平年 41.9%）で平年より高く、１地点当たりのすくい取り頭数も 12.0 頭（平年 7.9 頭）であり、平年より多かった（図６）。

（3）特に、イネ科雑草が出穂している畦畔では、アカスジカスミカメ成幼虫がすくい取られている。

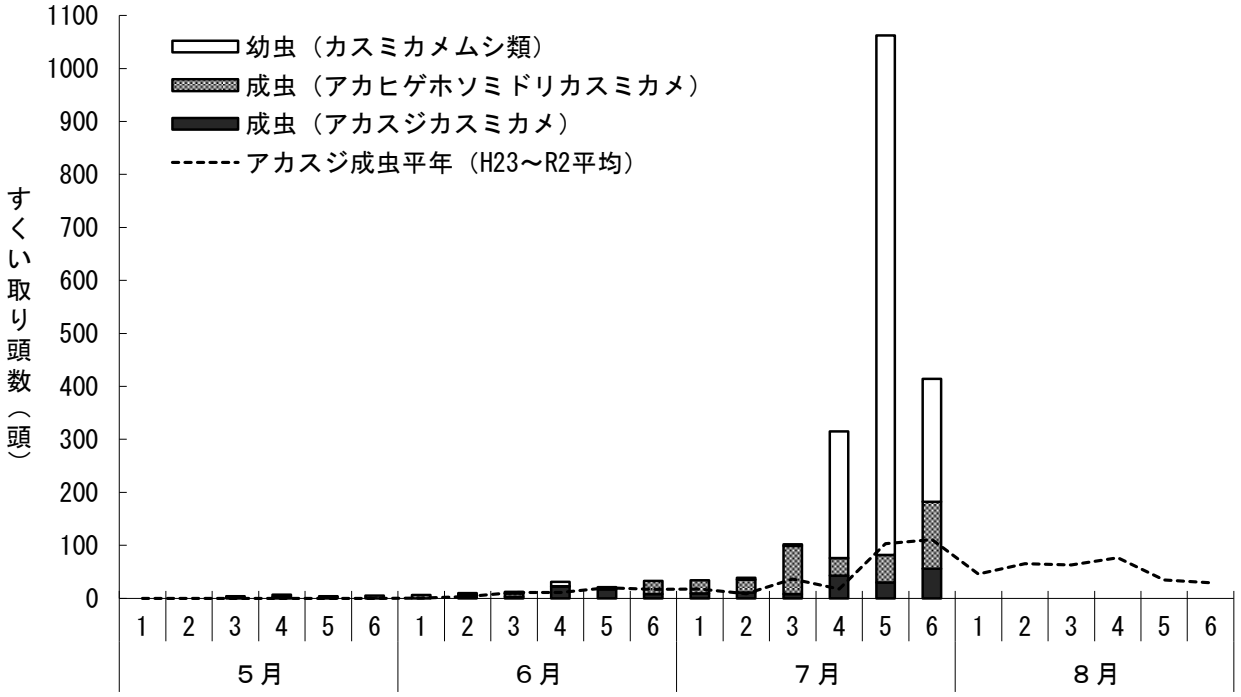

図５　基準圃場（北上市成田、イタリアンライグラス）におけるカスミカメムシ類の発生推移
（７月第６半旬現在、往復 20 回振）

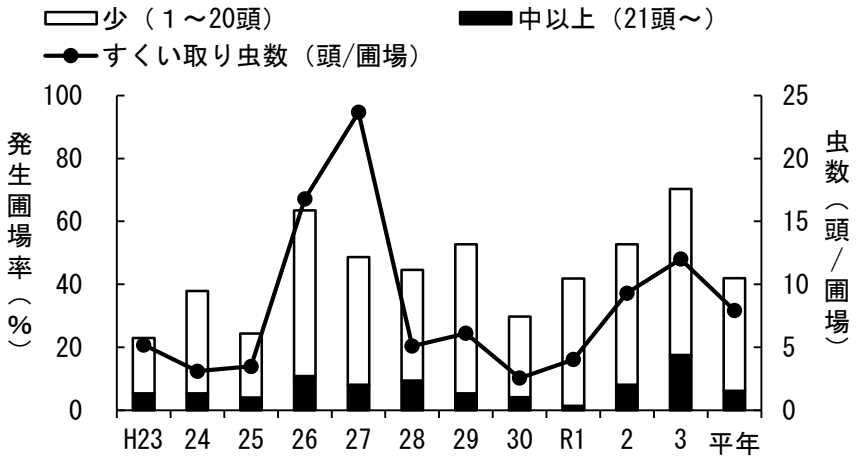

図６　斑点米カメムシ類の発生圃場率の年次推移
（７月下旬、水田畦畔すくい取り、往復 20 回振）

6　フタオビコヤガ（イネアオムシ）

（1）　７月の本田すくい取り調査（39 圃場）における第２世代幼虫の発生圃場率は、７月上旬は 10.3%（平年 16.4%）、７月下旬は 20.5%（平年 31.6%）であり、平年よりやや低かった（図７）。

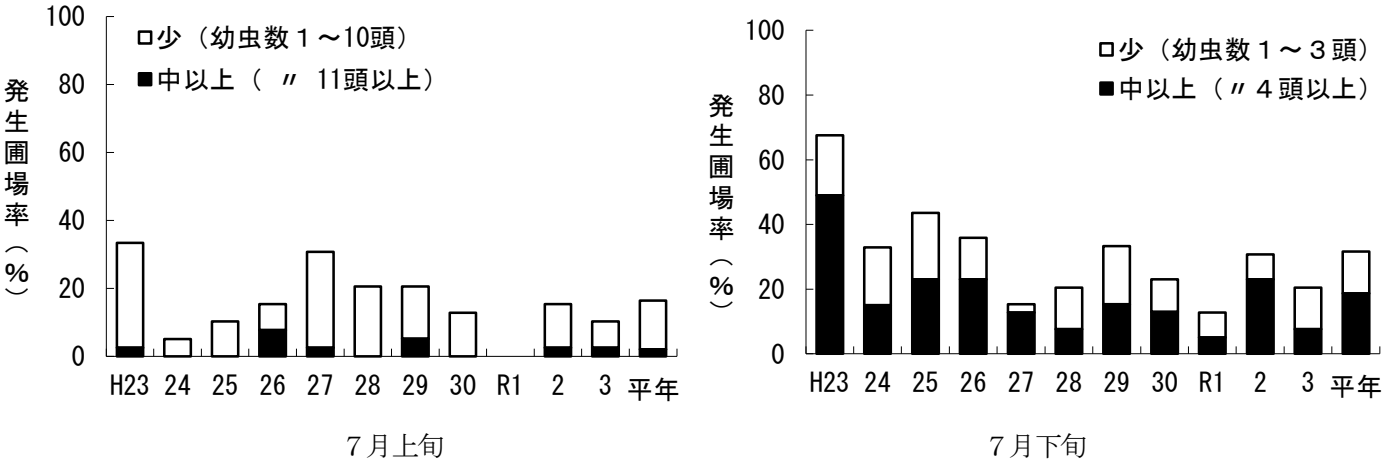

図７　フタオビコヤガ（イネアオムシ）幼虫の発生圃場率の年次推移
（７月上下旬、本田すくい取り、往復 20 回振）

7　ウンカ類

（1）７月下旬の本田すくい取り調査では、ヒメトビウンカが確認されたが、発生圃場率は 5.1%（平年 2.1%）で平年並に低かった（データ省略）。

8　コバネイナゴ

（1）７月の本田すくい取り調査では、７月上旬の発生圃場率は 69.2%（平年 61.8%）で平年並であり、７月下旬は 89.7%（平年 72.1%）で平年よりやや高かった（図８）。

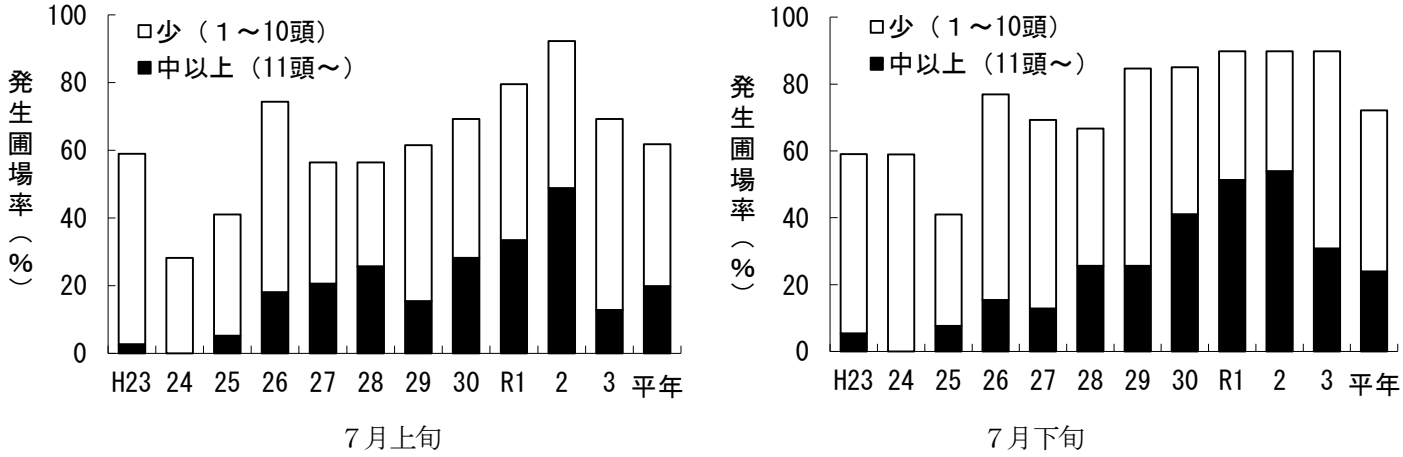

図８　コバネイナゴの発生圃場率の年次推移
（７月上下旬、本田すくい取り、往復 20 回振）

9　ツマグロヨコバイ

（1）７月下旬の本田すくい取り調査では、平年同様に発生は確認されなかった（データ省略）。